

諏訪湖創生ビジョン 改定（施策の見直し）の経過について

『人と生き物が共存し、誰もが訪れたいくなる諏訪湖』の実現に向けて

改定の考え方

- ・ 諏訪湖創生ビジョンの策定時に5年ごとに施策を見直すこととしており、今年度がその5年目に当たる。
- ・ 諏訪湖創生ビジョン推進会議構成員によりさまざまな改善策が進められ、一定の成果を上げているが、依然として残されている諸課題への対応や、社会情勢の変化に対応した新しい視点を取り入れることが求められている。
- ・ 推進会議にワーキンググループを設置し、住民意見等を反映しながら改定（施策の見直し）を検討する。

これまでの取組

- ・ ワーキンググループ会議を4回開催、構成員アンケートの実施、諏訪地域・天竜川流域の住民を対象に懇談会を開催し、意見を集約
- ・ これまで寄せられた主な意見・提案は以下のとおり

第1回ワーキンググループ（R4.8.2）

- ・ 刈取時期や場所等を考慮し、景観改善の面からも対策を取ってほしい。
- ・ これまでは水質を目標に改善に取り組んできたが、漁獲量は減少、生物の安定的な生息が見られていない。湖全体の環境に配慮し、特に沿岸域について施策を進める必要がある。

第2回ワーキンググループ（R4.9.6）

- ・ ヒシ刈りについては、カヤックコースの維持やホテル前面景観維持の点から、間欠泉センター～日赤間をきれいにしてほしい。
- ・ 生態系を議論するに当たり、漁協は欠かすことができないので、連絡を密に取ってほしい。
- ・ マイクロプラスチック等ごみ問題についても書き込んでほしい。

第3回ワーキンググループ（R4.10.31）

- ・ 松本、上伊那からサイクリングロード利用者が増加しており観光面ではよいが、環境、安全・安心をどう確保していくかは検討していく必要がある。

諏訪湖創生ビジョン推進会議構成員アンケート

- ・ ヒシの大量発生以外、諏訪湖の状況を知らない人が多い。マスメディアを含め、もっと伝えることを徹底し、様々な機会を作り参加を促すことが必要

諏訪湖創生ビジョン改定に向けた地域懇談会（R4.11.28）

- ・ ヒシの大量繁茂に関して、適切な刈取りが必要。ごみ問題対策としての必要性。
- ・ 漁業に限ることなく、生物の生息場所の整備が必要
- ・ 諏訪湖の水深が浅くなる対策として浚渫が必要。今後予定されている国民スポーツ大会の実施を考慮する必要。ヒシの繁茂対策としての浚渫が必要。一方、生態系を考慮した浚渫が必要

第4回ワーキンググループ（R5.1.25）

- ・ 調査研究によるエビデンスの取得も重要だが、調査研究から事業への移行の必要性
- ・ 諏訪湖環境研究センター（仮称）が設置されるが、学びの場についてもう少し記載が必要

諏訪湖創生ビジョン改定に向けた地域懇談会（R5.2.6）

- ・ マイクロプラスチックごみへの対応していくことの必要性
- ・ 諏訪湖が泳げるようになることは大事。一方、観光客が増加しごみの増加が心配される。